

みやのうらこう

宮浦港（県管理地方港湾）

宮浦港は直島の西岸に位置し、宇野～直島～高松間のフェリーが就航する直島の玄関港としての役割を果たしています。

本港は元来、漁船の利用を主とする港湾でしたが大正6年に、直島に銅の製錬工場が立地したことが契機となり、本格的な港湾整備が始まり、昭和9年以降数次にわたり拡張整備され、平成5年度からの港湾整備で現在に至っています。

また、直島は「アートの島」として知名度が高まっており観光客が増加していることから、直島町においては、瀬戸内海の魅力を活かした地域活性化を図る施策として、旅客ターミナルなどの「海の駅」の整備を行うなど、本港は直島と他地域を結ぶ主要な交流拠点としてますますの発展が期待されています。

